

林文子先生を偲ぶ

「林文子先生の思い出」

石口 恒男

林文子先生は、現在の名古屋大学医学部保健学科の前身、医療技術短期大学部（医療短大）診療放射線技術学科の教授を担当されていた。因みに、医療短大のさらなる前身は、鶴舞キャンパスにあった医学部附属診療放射線技師学校である。

私は、平成3年3月に退官された林先生の教育科目を引き継ぐ形で、同年4月に医療短大に助教授として赴任した。担当は、X線撮影技術学、X線機器工学、放射性同位元素検査技術学、臨床医学概論、外書講読などであった。

林先生とは、私が医療短大に赴任する1~2年前、CTやMRIの画像を編集して画像解剖の教材を作成する研究のお手伝いをさせていただいた。当時、医療短大におられた佐々木教祐先生が考案されたコンピュータ処理システムを使って、CT/MRI画像をフィルムからビデオカメラで取り込み、カラー処理を行い、画像に図形やコメントを追加するという、その当時としては斬新な手法を使ったものであった。仕事の日はずっと、佐々木先生と仲田（今池の北東）の洋食屋さん「キッチンおおつか」のカウンターで夕食をごちそうになり、その後、医療短大の準備室で遅くまで作業を行った。この成果は、「医用画像 -頭頸部-」として出版された*。

私が医療短大に在籍した平成3年4月から平成7年6月の間、それまで林先生がおられた教官室を使用することになった。初めてその部屋に入ったとき、床にはカーペットが敷かれ、デスクや書庫は大変綺麗に整理されていて、林先生の潔癖で几帳面なお人柄を改めて感じたことを覚えている。

私の医療短大での4年間の貴重な経験は、その後の研究、教育に大きく役立っており、林文子先生との出会いはその端緒であった。この度、林先生が初代理事長を務められた健康文化振興財団の機関誌「健康文化」が第50号を迎えることを心よりお祝いするとともに、林先生の思い出について寄稿の機会をいただけたことに感謝申し上げます。

*石口恒男、林文子、佐々木教祐：医用画像 -頭頸部-、三青デザイン、名古屋、1991

（愛知医科大学医学部放射線医学講座 教授）